

ふるさとネット 神楽坂で物産店

島の状況伝える好機に

明日葉やくさやなどを販売



今回も盛況だった神楽坂での物産販売

ふるさとネットは、5月17日に神楽坂で、明日葉をはじめとする三宅島の特産物を販売した。当日は悪天候だったが、多くの客が物産店に立ち寄り、島の状況を伝えるよい機会になった。

ふるさとネットによる神楽坂での特産品の販売は、昨年10月5日に続いて今回で2回目になる。この企画は、神楽坂商店街振興組合が主催する青空フェスタに参加する

三宅島新報

発行所：三宅島ふるさと再生ネットワーク
〒100-1101
東京都三宅島三宅村神着 320-2
Tel. 090-4922-0798
発行人：会長 佐藤就之

事務局便り

○第15回世話人会開く

5月16日、巣鴨で開催。神楽坂フェスタ、HP、訪問活動対策、一部役員の変更を決めた。

新事務局長 横山美紀
次長 糸井真由美
次長 みやこし
新世話人 伊藤奈穂子

○ご寄付のお願い

郵便振替口座
口座番号：00120-3-545036
口座名称：三宅島ふるさと再生ネットワーク

事務局：あすなろ保育園内
郵便番号：173-0005
住所：板橋区仲宿 25-6
電話・FAX 03(3963)5697
担当 横山・みやこし

かたちで行われているものだ。この日は、前日の雨のため、フェスタは中止となったが、同商店街の配慮で、物産品の販売はテントを設置して行われることになった。販売したのは前日に到着した新鮮な明日葉、たけのことくさやの干物で、たいへん好評であった。また、この日に合わせて三宅島から手伝いに来たふるさとネットの協力者も店頭に立ち、商品の説明を行った。

来店者の中には、「この前のフェスタで買った明日葉がおいしかったの」と話すりピーターや、展示された島の写真を見て、現状を聞く人もいた。ふるさとネットは、10月に行われる次回のフェスタにも参加する。

局長を務めさせていただきまます横山美紀です。至らない点が多々あると思いますが、ご指導の程よろしくお願い致します。ふるさとネットの活動を通して、在京島民の方とのふれあいを大切にしていきたく思います。また、多くの方々に三宅島の「今」を知っていただき、更なる復興支援に繋がりたいと思います。今後とも変わらぬご支援を、よろしく願致します。



新事務局長 横山美紀
「これからも変わらぬご支援を」

7月より、ふるさとネットの事務局

ふるさと再生ネットワーク事務局局長を退任いたしました。在任中は、みな様方から多大なるご指導ご助力をいただき深く感謝申し上げます。ネットの活動、様々な方との出会いを通して、多くのことを学ばせていただきました。今後も微力ではありますが、世話人として在京島民の訪問活動を中心に、三宅島復興支援に携わっていきたく思いますので、よろしく願致します。



前事務局長 伊藤奈穂子
「ご指導感謝申し上げます」

このたびは6月末まで三宅島

会長時評

人工透析装置の配備早急に

安心して暮らせる島づくり目指して

全島避難指示解除から5年目に入り、行政主導の復旧事業はほぼ終了した。しかし医療と福祉の面では、まだ問題が残る要望の声も多い。それらを踏まえ、島内に人工透析装置を配備するための署名活動が行われている。(3・4面に関連記事)

全島避難指示解除から5年目に入っている。この間、様々な努力で都道、砂防ダム工事など行政主導の復旧事業はほぼ終了した。災害復旧の基礎的な基盤整備は都、国の支援の賜物であり深く感謝を表したい。

しかし、三宅島の現状と将来を考えると安閑としてははいられない。

私は、全島避難中「三宅島島民連絡会」の会長として、帰島後も考えて行政を含め全島民が分裂をさせ、まとまって困難に打ち勝つために、お互いを理解し激しい批判や行動にも一定の抑制を求

めてきた。だが今は違う。

村政の現状は、島民の意思からかい離して硬直化が目立ちすぎないか？

患者数によつては黒字も

今回、島民有志により人工透析実施を求める請願署名活動が始まった。

6月16日、村議会で浅沼徳広議員が人工透析設置請願署名は1,238筆と報告。村長、議長との協議で、「三宅村国民保険運営協議会」で審議し、場合により9月議会に提出すると発言した。

在京者集計は140筆。

署名簿

人工透析実施に関する

請願について
趣旨 重度の腎臓機能障害などの方々は、腎臓移植を行うか、機械装置による血液の循環濾過「人工透析」が唯一の生命維持の方法とのことです。

「伊豆岬灯台100周年記念行事」を開催



しかし、三宅村にはこの設備がなく、患者は島外の病院に入院するか、通院して加療しています。本人や家族の精神的、経済的な負担は計り知れず、避難指示解除後もこの加療のために帰島できない世帯もあり、極めて深刻な事態であります。この施設の設置・運営面で多くの困難も予想されますが、すでに大島町、八丈町、新島村、神津島村等では実施しており、

他に小笠原村も準備中であり、患者数によつてはこの事業は採算（黒字）を見込めるということですが。この際、三宅村も「人工透析の設備」を設置し、患者や家族の負担軽減をはかり、島内で安心して加療できる体制を整えて戴きたく、地方自治法第124条の規定により、標記の通り請願書を提出します。

柔軟な対応望む声多数

医療と福祉サービスについて在京島民の二回のアンケートの声を紹介しよう。

○病気のため帰島できないでいます。

○だれ一人、人工透析のことを頭に入れていない議員、村民がいけないこと。

自分の身に起きないからこれまたしかたないと思いますが、八丈島、新島、

6月30、31日に「伊豆岬灯台100周年記念行事」が観光協会主催で行われた。式典には海上保安庁の和泉哲夫氏、巡視艇「かの」が来島した。

大島には人工透析の機械が入り、東京にいた人が帰島でき喜んでいる言葉が七島新聞に載っていました。三宅島はだれ一人耳にしません。残念です。○十分な医療（例：透析の機械が一台もない）や福祉サービスが島で受けられれば帰島したい。○人工透析の機械を三宅島の診療所に入れてほしい。一台入れれば5、6人は帰ることが出来ます。全員がそれ待っています。

平成21年1月のアンケートでは「いずれ帰島する」意思のある世帯のうち「健康状態がよくなれば、帰島する」と「十分な医療や福祉サービスが島内で受けられれば、帰島する」が約5割。

人工透析の要望は、「第四次三宅村総合計画後期五カ年実施計画」（平成19年、平成23年）にはばまれ実現できなかった。

安心・安全の島づくりのために村政は、島民の要望に応えられるよう努力し、柔軟であるべきである。（佐藤就之）

及川先生4年目の健康講座

心とからだのケア5月にも



坪田老人クラブで行われた健康講座では、北海道から来島した尾山沙弥子ちゃんが落語を熱演（5月2日）

三宅島で健康講座を開催して4年目になる及川裕子先生から送っていただいた、5月に行われた10回目の講座等の様子、島民の方々とふれあっていることについての意見や感想、さらに先生の自己紹介も掲載する。

三宅島の皆さま、こんにちは。近大姫路大学の及川です。私が三宅島に来させていただくようになって、4年目を迎えます。いつも島の方々のあたたかな笑顔を楽しみに来ていま

す。また、年々生茂っていく島の緑の美しさを見ると、自然の力強さを感じます。5月にも、神着、坪田、伊豆で健康講座を開催いたしました。今回のテーマは「心とからだの健康」ということで、健康チェックをしたり体操をしたりしました。実は、この企画は、3月に行う予定だったものです。竹芝から船に乗ったのですが、低気圧の影響で島に

及川先生の自己紹介



大路池を訪れた及川先生（右から二人目）

岩手県出身。宮城県にある赤十字看護専門学校で看護を学びました。その後、助産師の免許を取って、助産師で病院勤務を10年ちょっと経験し、看護師教育の道に入りました。趣味は野球観戦です。

上陸できなかったのです。これまで、「着発」は経験したことがあったのですが、4年目にして初めての「八丈島おくり」でした。おかげさまで日ごろの睡眠不足を解消することができました。

ですが、島の方々はそれを日常の生活の中で、心がけていることがすばらしいと思います。皆さまの「いつまでも健康で」の思いに何とか協力しようと思ひ、毎回の健康講座を企画しています。具体的には、高齢の方も

今回は、連休ということもあり、お楽しみ要素たっぷりの企画となりましたが、これからも、皆さまの要望をお聞きしながら、企画を練っていきたいと思っています。今後ともよろしくお願いいたします。

楽しい企画これからも

ということですが、今回はぜひとも上陸を果たそうと、大人4名、中学生1名の総勢5名で参りました。約3年間三宅の方々との交流させていただいて感じることは、皆さまが実際の年齢よりも非常に若々しく元気だということと、「健康」に対する自己管理意識が強いという事です。「いつまでも健康で」というのは誰しもが思っていることで

国民健康保険運営協議会メンバー

早期設置をお願いします

人工透析装置の設置問題を検討することになった「三宅村国民健康保険運営協議会」のメンバーは次の通り。（敬称略、順不動）

会長・平野辰昇（村会議員）、委員・平川大作（村会議員）、長谷川崇（村会議員）、浅沼存（坪田）、佐藤初美（阿古）、北川多恵子（阿古）、武井大（中央診療所医師）、吉村拓巳（中央診療所医師）、下山泰明（三宅島歯科診療所医師）（注）武井医師は転勤のため変更になる場合もあり。

9名の委員のみなさん。ぜひ切望している人びとと島の将来のためにも、人工透析装置の早期設置をお願いします。

訪問活動 中間報告

聞かれた継続望む声

ふるさとネットでは今年4月から新たな体制で在京者の訪問活動を行っている。6月末までに計16軒を訪問。その際には寄付していただいていたお米券の配布も行った。

【お便り】(要約)

ネットでも在京島民のみな様に人工透析実施の請願署名のお願いをしました。たくさんの方々にご協力いただき、署名を集めて下さった方からお手紙も届きました。

○日々のお働きによって三宅島が元気になれることを願っております。人工透析は命にかかわるもの、ぜひぜひ設備ができますよう祈っております。(青梅市 M様)

○三宅村でも人工透析の必要な方が安心して帰村できるように朗報を願っております。それでは神さまの祝福と導きが豊かにありますようにと、お祈りして。要件のみにて失礼いたします。(青梅市 S様)

【ご寄付者名】

大石真様、中村徹様、T様(4月11日～6月8日)ありがとうございました。

事務局等で13軒訪問

ネット事務局は北区や板橋区の在京島民宅を計9軒訪問した。その中の1軒は、都営住宅に住む一人暮らしで80歳の男性宅。高齢で喘息や他の病気もあり帰島をあきらめた。今島にある住宅は、

土地が荒れてしまい入ることもできない。「取り壊したいが自分ではどうにもできない」と話していた。また、あまり外に出ることがなく、人と話す機会も少ないという。避難前の島での話を聞くと、生き生きとした表情でた



訪問活動が行われている都営桐ヶ丘団地

くさんのエピソードをお話してくださった。そのほか、酒井一豊副会長と訪問員の成島ますみさんは、練馬区と東村山市の計4軒訪問した。

DTPAは3軒に

向上高校の卒業生が組織するDTPAは、当初府中市と八王子市を担当する予定だったが、稲城市等にも範囲を広げ、これまで計3軒のお宅を訪問した。

訪問したうちの1軒は、帰島をする意志はあるが家庭の事情により帰れない状況だった。しかし、いつか帰る日のために、島にある家を修繕したり、傷まないように風を入れたりするために島に通っている。

また、住民票を島から移していないために健康診断を受けられないなどの問題もあるようだ。そのほか、「広報みやけ」や「議会だより」は島の家に届くため、健康診断等の情報がわからなくて困っているという。

残り2軒は、事情により島に帰らないことを決めた家庭だったが、それでも望郷の思いは強いという。その中の1軒では、島に溶岩に埋まった土地があり、未だにその固定資産税を払い続けているという話が聞かれた。今回訪問した3軒すべてのお宅で、「島の情報を得ることができると、訪問活動は今後も続けてほしい」という話が聞かれた。

編集後記

5月から、私たちDTPAのメンバーも、未帰島者宅の訪問活動を行っています。また、神楽坂の青空フェスタでは、昨年の秋から三宅島の特産

物を販売するお手伝いをしていきます。これから、このような活動に積極的に取り組んでいきたいと考えています。どうぞ、よろしく願いいたします。(DTPA一同)

MY HOME イベント情報

○7月18・19日

牛頭天王祭(神着)

○7月31日・8月1日

マリンスコール(阿古)

○富賀神社神輿復活!

8月4日に阿古、5日に伊ヶ谷、6日に伊豆、7日に神着、8日に坪田、9日に本社。

この祭りは、「ケンカ神輿」と云われていて、避難前は神輿の受け渡しでもめ、けが人がへりでもめ、機動隊導入やテレビで放映されるなど島の最大お祭だ。

神輿の受け渡し儀式には、たすき、鉢巻きは手に持つことなどのさまざまな決まりがある。守らなければ乱闘になる?